

えいらい

No.22

平成 27 年 1 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会



年頭挨拶

～コミュニケーションと継承

— 永頼会50周年の次なる歩みへ～

理事長・院長 山本 祐司



2015年、平成27年の新春を迎え、今年が幸多き一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。地域の医療機関や関係各位の皆様には、日頃より救急医療や地域連携を通じて松山市民病院が大変お世話になり、感謝申し上げます。

昨年、日本列島は土砂災害や火山噴火など、多くの自然災害に見舞われました。政治経済では、日銀による金融緩和と円安株高、8%消費増税なるもマイナス成長、そして10%増税先送りやアベノミクス解散・総選挙、結果大きな変化なしの一年でした。ノーベル物理学賞では3人の日本人受賞などに沸きましたが、オリンピックや海外スポーツでは平成生まれのアスリートが活躍し、かつての昭和がととも古く感じられるようになりました。

医療界では、地域医療ビジョンと地域包括ケアシステムという新しい言葉が頻出し、経済低成長・少子超高齢・人口減少社会での社会保障のあるべき姿へ向けた議論が続いております。また、昨年4～9月、患者数減少と診療報酬改定の影響で収入減の医療施設が増え、消費増税による影響で4分の3の施設が支出増となっています(福祉医療機構)。

当院では昨年、「変革と育成」というスローガンを掲げ、新南(S)病棟第一期オープン、電子カルテ・SPDシステム稼働、医療秘書課と地域包括ケア病棟の新設、訪問看護課活動、多職種職員の各種学会・研究会発表、役職者人事考課研修、医療機能評価受審(更新)認定、がん診療連携推進とリレーフォーライフ・イベント参加、等々いろいろな成果を上げることができました。

今年も、引き続き永頼会50周年記念

事業として、新南(S)病棟第二期工事で松山中央乳児保育園の新築工事が進行中であります。この6月のグランドオープンで、市民病院としては昭和31年創立以来の管理棟、北(N)棟、南(S)棟の3つの病院棟の建替え2巡目が終了します。

入院診療では、ベッド数は削減されますが、内容を充実・多様化し、家庭や社会生活にスムーズに復帰できるリハビリ環境を整えます。その上で、福祉・介護をも包括・統合的にとらえて医療が提供できる急性期総合病院でありたいと考えております。

また、乳児保育園は昨年8月に社会福祉法人永頼会に移行し、この3月中には木造2階建ての新園舎がもとの三番町8丁目に完成します。同じ永頼会の兄・妹のように地域医療・福祉と子育て支援に、関係機関と連携して貢献できることを誇りに思います。

今年の病院スローガンは、「伝達と継承」を掲げます。英語ではcommunication and successionですが、「コミュニケーションと継承」というように、カタカナと漢字という組み合わせで言うのが分かりやすいかもしれません。病院医療における情報・知恵の「伝達(コミュニケーション)」を図り、永頼会50周年の次なる歩みへと、医療人の技(ワザ)や心(ココロ)を「継承」していこうというスローガンであります。

職場のあらゆる場面で、シニア、ミドル、ジュニアの各世代の職員が自分自身に問いかけてみてください。今年の干支である「ひつじ」のように、穏やかで人情厚く「コミュニケーションと継承」に努めていきたいものです。

関係各位の皆様には、今年も松山市民病院とのご交誼をどうかよろしくお願ひ申し上げます。

撮影：元非常勤顧問／鷲峯 知典 (松山城)